

「ヒナイ川の未来を考えるシンポジウム」を開催

西表森林環境保全ふれあいセンター

去る2月5日(日)、沖縄県西表島の中野わいわいホールで、「ヒナイ川の未来を考えるシンポジウム」を開催しました。

ヒナイ川は、沖縄県最大の落差(55m)を誇るピナイサーラの滝があり、下流部にはマングローブ林も広がる素晴らしい景観を呈していることから、自然休養林に指定されています。しかし、自然体験ブームも手伝って、ここ数年カヌーツアーによる観光客が急増し、自然環境への影響が心配されています。こうしたことから、将来にわたり観光資源として利用していくためにはどうしたらよいか、皆で考えていくきっかけになればと、シンポジウムを開いたものです。

当日は、カヌー事業者や自然に関心のある地域の方々約60名の参加者がありました。



ピナイサーラの滝で楽しむツアー客

< 基調講演 >

(名桜大学 奥田研究員、屋久杉自然館 ^{ひげた} 日下田館長)

第1部では、名桜大学総合研究所研究員の奥田夏樹さんと、屋久杉自然館館長の日下田紀三さんに基調講演をして頂きました。奥田さんには、「自然体験型ツアーと自然環境保全の共存可能性について考える～船浦湾地域の現状が示すもの～」と題し、十数年間西表島をフィールドとして研究を続けてきた生態学者の視点から、日下田さんには、世界自然遺産に登録されて以来ガイド・ツアーが急増している屋久島の事例を紹介して頂きながら、「自然環境の保全と利用のバランスについて考える」についてお話頂きました。



日下田 屋久杉自然館館長

<パネルディスカッション>

引き続き行われた第2部では、奥田さん、日下田さんに、西表島カヌー組合長の中神明さん、西表島エコツーリズム協会長の森本孝房さんを加えた4名の方にパネリストとなって頂き、パネルディスカッションが行われました。ヒナイ川の現状と問題点、カヌー組合やエコツーリズム協会の取り組み、今後行うべき対策などについて議論が行われ、ヒナイ川を将来も持続的に利用していくためには、「利用のためのルールづくり」や「利用状況に応じた施設整備」を進める必要があるとの提言が出されました。



4名のパネリスト（左から中神、森本、日下田、奥田の各氏）



年々増えるツアー客（ヒナイ川カヌー係留地）

<フリーディスカッション>

最後に、参加者も交えたフリーディスカッションが行われ、現在行われているツアーに対し、会場からは「自然と密接な関わりを持つ地域の文化・伝統もツアーの内容に取り入れ、西表島の人々の暮らしについても理解してもらうべき」、「単なる自然体験ツアーではなく、環境教育の側面をも持たせるべき」などの意見が出されました。

西表森林環境保全ふれあいセンターでは、シンポジウムでの提言、意見を踏まえた上で、今後も、ヒナイ川周辺の国有林の秩序ある利用に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。